

NJ素流協 News

令和6年2月10日

第229号

令和6年2月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

NJ素流協 令和5年度第2回林業経営講座 組合員さんたちと木都能代の広域集荷製材・市場視察！

NJ素流協では、組合員の経営に関する知識及び技術の習得を目的として、林業経営講座を開催している。

そこで第2回目は、「木都能代の広域集荷製材・木材市場」をテーマに、秋田県における製材・集材工場及びスギ高齡樹原木展示即売会出品材等の視察を、令和6年1月29日～30日に開催した。参加者は、NJ素流協組合員・役職員合わせて39名の参加であった。

●道の駅ふたつ

能代市二ツ井町にある米代川に沿った「道の駅ふたつ」は「秋田杉をふんだんに使った木造建築」で、延床面積は約3千㎡のトラス構造となっている。

中央の多目的ホールは、アーチトラスで天井が高く、秋田スギの無垢材を使い、柱のない大空間は迫力満点!!であった。



大天井の小屋組みは、挟み梁とトラスの応用

●中国木材株式会社 能代工場

【会社の概要について】

中国木材の本社は広島県呉市にあり、創業は1953年。事業内容は、①木材の製材、②木材の物流・販売・輸出、③プレカット加工、④原木および製材製品の直輸入、⑤山林経営、⑥木質バイオマス発電となっている。戦前に酒樽・味噌樽の製造をしていたが、その後「ビン」に代わった。戦後にチップ製造を開始し、「実は日

本企业で最初にチップ販売を行った事業だ！」と説明があった。

チップは、北洋材を原料としていたが安定供給されず米マツにシフトした。その後、外国からチップが輸入されるようになったことから、本社の事業展開により製材が始まった。木造住宅構造材を造るメーカーとして、梁の部分を乾燥させるために乾燥機を導入するが、この時代は乾燥材が普及されず、1995年の阪神淡路大震災を機に、木材乾燥材の時代が到来した。

それから需要が高まり、プレカット事業・木質バイオマス事業へと展開し、能代工場は15工場目となる。

【能代工場の概要について】

敷地面積は、約30・3ha、訪問した際、製材工場の試験運転が行われていた。自動選別機による仕分け(長級・径級・矢高)が稼働しており効率的に行われていた。

雇用は、総計で250名(うち現地採用は210名)、原木利用量は24万㎡/年(2シフト)となっている。今後の予定は、24年4月加工工場

の試験運転、7月に集成材工場試験
運転、9月集成材JAS取得・販売
開始、26年バイオマス発電試験運転



自動選別機に丸太を投入



土場の様子

の予定となっている。

能代工場は国産材新設工場として
おり、日向工場同様にオールスギを
扱う。また、国産材の構造材におい
ても米マツ・スギハイブリット集成
材、ヒノキ・スギ集成材の開発にも
取り組んでいる。

●協同組合秋田県銘木センター

スギ高樹齢原木展示即売会の出品
材とその価格を見て、なぜこのよう
な値段になったのか等分析や意見交
換をしながらの視察であった。



意見交換しながら丸太を観察！

この即売会での丸太の購入者は、
いわゆる銘木の製材所であり、その
目当ては、柃平を製材できる丸太で
ある。そのため、赤身の強さや節の

具合等で、径級が太くても、好まれ
る丸太とそうでない丸太の差が激し
く、同じような見た目目同じ径級で
も値段に4倍近くの差がある丸太も
あった。真っ直ぐ、無節、赤身の色
と張り具合などの条件により、価格
に大きく差が出たようだった。

その後、製品倉庫も視察した。住
宅の扉や寺社の天井板、テーブル
板、店舗のカウンター等、様々な用
途に使われる板を見せていただいた。
全般的に赤身が黒いものは欠点とな
るが、黒色が突き抜けて強いものは
製品として逆に人気が出ることもあ
り、一つとして同じものがないのが



製品倉庫の視察の様子

面白いところだと仰っていた。遠方
からわざわざここまで運んで加工し
てもらう事例もあるようで、能代だ
からこそできる技を感じた。

●東北木材株式会社

東北木材株式会社は昭和3年創業、
東北の製材所の中でも古参である。

秋田杉を中心とした国産材原木を
原料として、一般住宅や公共事業等
に使用する内装材、構造材の製造を
行っている。

販売先は、秋田県内を含む東北地
域全域、及び首都圏方面に出荷して
いる3・65m中心の秋田材専門工
場だ。

今回は丸太土場、バーカー、チツ
プキヤンター、製材、加工、人工乾
燥、製品倉庫といった一連のライン
を視察し、原木生産や木の有効活用
についての思いを伺った。

生産している製品は、芯持ちの柱
等一般建材。無垢の材ならばすべて
取っていて、KD材がおよそ7割で
残り3割はグリーン材とのこと。

月に約3千m³丸太を消費。自伐し
たものであっても自分たちのところ

で製材にしない物は他に売却したりして有効活用しているとのことだった。



工場視察の様子

●旧料亭「金勇」

昭和12年に建設。天然秋田杉をふんだんに使った数寄屋造りで、大小11の部屋があり、それぞれ内装に特徴を持たせている。

見どころの一つは2階大広間で、広さが110畳あり、天井は樹齢260年以上、直径2m級の天然秋田杉の根元から製材した柵目板を成型に配した「四畳半仕切り格天井」となっている。また、「満月の間の天井」は、5間(9・1m)の中天井板が張られている。手挽きで製材して

いるとは思えなかった。



金勇は国登録有形文化財になっています

トピックス

令和5年度
森林林業中央研修会が
開催されました

1月12日、東京都内で全国素材生産業協同組合連合会(全素協)と全国国有林造林生産業連絡協議会(全国造生協)主催の「令和5年度森林林業中央研修会」が開催され、当組合からは組合員・事務局役職員合わせて31名が出席しました。研修内容は以下の通りです。

▽森林・林業・木材産業を取りまく情勢と需要に応じた木材供給について

林野庁林政部木材産業課長

石田 良行 氏

▽国有林野事業の展開方向について

林野庁国有林野部業務課長

嶋田 理 氏

▽実証事業「北欧をモデルにした北海道十勝型機械化林業経営」におけるGNSSの利用

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所

北海道 支所チーム長

佐々木 達也 氏

▽新たな労働安全対策について

一般社団法人 林業技能教育研究所 所長

飛田 京子 氏

▽これからの林業を考える

一般社団法人 日本木質バイオマ

スエネルギー協会 会長

酒井 秀夫 氏

EUの脱プラの取り組み
禁止となった品目は??

EUでは、2021年7月から、皿

●カトラリー(フォーク・ナイフ・スプーンなど)

●ストロー

●マドラー

●風船用の棒

●綿棒の軸

●発砲ポリスチレン製のカップ、食料・飲料用容器

●オキソ分解性プラスチック製の全ての製品

以上の市場流通が禁止されました。また、それ以外のプラスチック製品も、消費抑制や適切な廃棄を講じる等の対応が決められました。さらに、

環境・地球温暖化対策では、日本はEUの後追い、CLT利用・高層ビル木造もEU先行で、日本は後追い。あらゆる分野での木材利用へ向けて日本は100m競争スタートダッシュで先頭に!!



2023年9月には、製品に意図的に添加されるマイクロプラスチックを制限する措置が欧州委員会で採択され、脱プラへの動きが急ピッチです。

素材生産の 労働災害撲滅Q&A その1

林業労働災害は、皆様のご努力によって減少傾向で推移しておりますが、より一層の安全衛生対策の実行推進をして労働災害撲滅を目指さなくてはなりません。

林業・木材製造業労働災害防止協会が、労働安全衛生関係法令やガイドラインの新設・改正労働災害の態様等を踏まえて「林業・木材製造業労働災害防止規程」の大幅変更を行ったことを前号でお知らせしました。

今回は、そのうち、チェーンソー作業について改めてQ&Aを作成してみました。今一度、安全確保のご確認をお願い致します。

また、事業者の安全管理義務の観点から請負者にもご指導いただきました併せてお願い申し上げます。

Q1 林業労働災害はどれだけ発生していますか？

令和4年度の全国の発生件数は、休業4日以上死傷災害が1176人、死亡災害が28人となっています。林業労働災害の60%以上がチェーンソーによるものです。

Q2 今回の伐木造材作業等の主な規程変更の項目を教えてください

大きくは以下です。

- (1) チェーンソーによる伐木等作業に関する作業計画の作成
- (2) 受け口を作るべき立木の胸高直径と伐倒時の措置
- (3) かかり木処理における禁止事項等
- (4) 伐倒作業時の立ち入り禁止
- (5) 切創防止用保護具の着用義務
- (6) 伐木等指導者の指名と職務

Q3 (1)のチェーンソーによる伐木等作業に関する作業計画ってなんですか？

①伐木造材作業を行う前に調査・記

録、リスクアセスメント等の実施及びこれらを踏まえた作業計画の作成を行います。

②また、作業計画に基づいて作業指揮を行う作業指揮者を定めなくてはなりません。

Q4 (2)の受け口及び追い口の変更点とは？

①受け口を作る対象が胸高直径20cm以上のものに拡大されました。但し、20cm未満であっても適切に受け口、追い口及び切り残しを作ることが望ましい。

②受け口の角度は45度を基本とし、少なくとも30度以上とします。

③受け口の下切りと会合線(えいごうせん・斜め切りの終わり部分が一致する線)を水平に設置します。

受け口の深さは、20cm以上の場合、は伐根直径の4分の1、70cm以上は3分1です。

追い口の位置は、受け口の高さの下から3分2、追い口の切り込み深さは、つるの幅を伐根直径の10分1とし、切り込み過ぎないようにします。

Q5 (3)のかかり木処理の注意点は？

かかり木処理は特に危険な作業です。

速やかに作業計画に定めた作業方法でかかり木処理を行います。放置は絶対にダメです！

計画に定めた作業方法では十分な安全を確保できない場合は、作業指揮者の指示の下、その他安全な方法によって対処しなければなりません。

そのためには、作業計画に定めた機械器具等を現場に配置する必要があります。

Q6 かかり木の処理を安全にするにはどうしたらよいですか？

まずは、かかり木の径級、状況、作業場所及び周囲の地形等の状況を確認し、かかり木により危険のおそれがある場所から安全な退避所を速やかに選定します。

かかり木処理の作業の開始前又は開始後にかかり木が外れはじめ作業

者に危険のおそれがある場合には、あらかじめ選定してある退避場所に作業者を退避させます。

かかり木処理の作業を終わるまで、かかり木の状況に注意を払うことが重要です。

かかり木を確実に速やかに処理することが困難な場合は、他の作業者が危険のおそれがある場所に近づかないよう標識の掲示、テープを回す等の立ち入り禁止の措置を行う必要があります。

危険な作業なので、できるだけ作業は2人以上で行いましょう。

Q7 かかり木処理で禁止されていることはなんですか？

寄りかかられている木を伐倒して倒すこと、かかり木の樹幹は広範囲に、伐倒木は突然イレギュラー方向に倒れる！

他の立木をかかり木に激突させて掛かり木を外すこと、浴びせ倒しは予期しない方向にはねる！

かかり木を肩にかつぐなどして移動させて外すこと、かかり木の元口

付近は危険部位！

寄りかかられている木や、かかり木の枝を切り落とすこと等により外すこと、かかり木が突然落ちてくる！

Q8 かかり木処理に使う機械器具とは？

車両系木材搬出機械、機械集材装置、簡易架線集材機等の使用ができる場合は、原則としてこれらの林業機械を使用してかかり木処理を行います。

胸高直径20cm以上のかかり木は、容易に外れそうにない場合には、けん引用具等を使います。

胸高直径20cm未満で容易に外れるものは、木回し、フェリングレバー、ターニングストラップ、ロープ等を使用します。

Q9 (4)の立ち入り禁止区域とは？(第68条)

伐倒木の樹高の2倍相当の範囲内、近接して伐倒を行う場合は高い方の木の2・5倍相当です。

加えて、伐倒方向と伐倒方法も関

連します。伐倒方向を自由に選択できる場合には、伐倒方向は斜め下又は横方向を選択し、伐倒方向を下方

向又は上方向とする場合には、伐倒した場合の特質(伐採木のはね上がりや滑落)を十分理解する必要があります。

Q10 (5)の着用義務のある保護用具等とは？

着用義務のある保護用具は、保護帽(ヘルメット)、防振・防寒用手袋、耳覆い等の防音具、保護網又は保護眼鏡等、ソーチェーン(歯)から守ってくれる保護部材が入った安全靴及び下肢の切創防止用保護衣(保護ズボンやチャップス)です。

Q11 (6)の伐木等指導者と作業指揮者は違うのですか？

伐木等指導者とは、安全衛生規則に定める特別教育修了者で、伐木等作業の業務に従事した期間が3年未満の伐木等初級者を指導する者になります。伐木等指導者は、特別教育を終了し、伐木等作業の業務に従事

した期間が概ね8年以上の者とされ、伐木等初級者がいる作業班ごとに指名しなくてはなりません。

作業指揮者は作業計画に基づいて作業指揮を行う者で、つるがらみやかかり木などの作業支障のある場合にも指示を行う者のことです。

Q12 これ以外に伐木造材で注意することは何ですか？

「くさびの使用」です。くさびを常に携帯するように指導ください。伐倒しようとする立木の重心に偏りがあるもの、胸高直径20cm以上のものを伐倒する時は、同一形状かつ同じ厚さのくさびを2本以上使用する等立木が確実に狙った方向に倒れるようにします。

くさびは立木の大きさに応じて本数を増やす必要があります。また、くさびの打ち込み時のズレや凍結時の抜け防止のため表面を滑りにくく加工したものを使用します。

Q13 その他に注意すべきことはありますか？

強風、大雨、大雪等の悪天候のため危険が予想される場合、気象警報等が発表され悪天候となる場合には、作業を中止してください。命より大事な仕事はありません。

強風とは10分間の平均風速が10m/秒以上、大雨とは1回の降雨量が50mm以上、大雪とは1回の降雪量が25cm以上を言います。

また、ご承知のとおり、地震も山幅崩壊のおそれがあります。中規模地震（震度4）以上は山腹崩壊にもご注意ください。

Q14 最後に安全教育について教えてください

チェーンソーによる立木の伐採等の危険有害業務を行わせる場合、事業者は、新規就業者に伐倒業務に係る特別教育を、業務従事者には安全衛生教育を5年毎に実施する必要があります（危険又は有害な業務に現に就いている者に対する安全衛生教育に関する指針（厚生労働大臣公示））。

今回は、大径木・困難木の伐倒に

ついて解説します。

大ニュース

労災保険料の引き下げについて

厚生労働大臣の諮問機関である労働政策審議会の見直し回答により、保険加入料を定めている厚生労働省令が4月1日に改正される運びとなっています！

引き下げとなる木材産業の加入保険料率は次のとおりです。

【引き下げ】

林業 60 ↓ 52

木材又は木製品製造業 14 ↓ 13

※単位は1000分率（‰）

残念なことに、一人親方等の林業、運輸事業は変わりません。次回に期待を！

お知らせ

より効果的なホームページ運営を目指します

このたび、より効果的なホームページ作成を目指すため、閲覧者の動向やニーズを詳細に把握できるアクセス解析サービスを導入しました。

閲覧者の各コンテンツへの訪問者数、地域別閲覧者の動向を知ることにより、これまで以上にホームページへの訪問者数を的確に把握することができ、各コンテンツの人気や地域ごとの関心事をより正確に把握し、需要に応じた情報発信できることが期待されます。

また、組合員の皆様の活動を紹介するためのページを新たに追加します。掲載ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。



今の丸太の需要は？
〜ぜひご相談を！！〜

今、不足により要望が強い丸太をお知らせします。

- 杉 高齢級（80年以上40cm上）
- 杉 小径丸太（14〜16cm）
- 杉 3・65m
- 杉 4m材集成材用（18cm上）
- カラマツ 小径丸太（14〜16cm）
- カラマツ 杭丸太（8〜14cm）

採材方法や販売単価等ご相談は営業企画部までお願いいたします。

「自己研鑽研修助成金」の申請について

当組合員の役員・従業員が技術や知識向上のため、外部研修会等に参加した場合や、独自に研修会等を開催した場合、その経費の一部を助成します。

申請期限は2月末日までとなっております。是非ご活用ください。

詳細については経営企画課 吉田までお問い合わせください。

ちよつと気になる木の話

91

キラッと光る工場丸太救出作戦
— 決行するぞ?! —

地方の中小規模の製材工場に丸太土場がある。よく目にするのが土場の端にあるクリの4mやスギの目詰まりの大径良材である。いずれも古くなり、木口は茶褐色になっている。「もったいないよ。他の所に売った方がもうかるよね」と言う

と、「いつか突然注文が来るかもしれない」「息子や娘が家を建てる時使うかもしれない」との回答があるあるである。結局、使わないまま使えなくなる。せっかくな高価な良材が捨てられることとなる。せっかく育った木にかわいそうだなあ。

少し大規模な工場では、別の光景を目にする。沢山の樅積みの中で、樅の後ろの部分の丸太が「まっくろくろすけ」である。工場では、丸太の利用順番は、先入れ先出しが基本である。丸太が古く劣化しないうちに製材にかけて製品にするのである(冬伐り丸太は劣化しにくいので、梅雨時期には後入れ先出しもあるが)。

ところが、丸太を運ぶローダーの運転手は出し易い前から運ぶ。その列の最後まで運ばないうちに、土場が狭いと新鮮な丸太が前に積まれる。結果、こうした状況となる。丸太の消費の列順、仕入丸

太の場所指定等製材工場マネージメントの話ではあるが、結果、劣化して使えなくなる。

また、3m、3・65m、4mと三分の一ずつ必要とする工場では、製品の注文が3mに偏ったり、3・65mに偏ったりすると、集中的にその長級丸太を消化してしまい、他の長級丸太が在庫となり、劣化してしまう場合もある。状況を見て、劣化限界前の丸太在庫は、他へ転売する方がせっかく育った丸太にはいいことだと思いが…。

他にも、入札で落札した樅の中に使えない(使いづらい)丸太が工場土場で放置在庫されているケースもある。

最近では、製材業と素材生産業と兼業している会社も多くなっている。もちろん、自分で最も必要な樹種、長級、径級は自社土場へ運ばないが、使わない丸太は、山土場から別売りするのが当然である。しかし、自社トラックの関係上とりあえず満車にするため、工場土場へ持つてくると、またまた、そのまま放置される丸太が工場の端に「まっくろくろすけ」となっている。もったいない作戦がもつたない丸太となっている。

それでは、大工場はどうかという中小工場と同じケースも多々見うけられる

が、別のケースも生じている。

高速ノーマン工場とは、利用径級が絞られている。パーカーや投入口でハネられてしまう丸太がけっこう出てしまう。もちろん、山土場からの直送丸太が多いので、径級オーバーや曲がり強い、延寸がありすぎ等のケースもある。こうした場合、当組合に転売依頼される工場もあるが、まだまだ徹底されてはいない。かつて、合板工場のパーカー径を超えた丸太が土場に残った場合は、当組合員のボランティアで手で皮むきを行って有効活用してもらった活動もあった。せっかく育った丸太がかわいそうだなあ。ここからは真逆のケースである。

製紙用、バイオマス用のチップ工場である。現在は、ほぼトラックの幅に合わせ、長級2・1m×2・2mで納入されているので、針葉樹の場合はあまり問題は無い。直材なので、杭丸太びつたりのカラマツとかスギの化粧用に使える大径材もないわけではないが…。

問題は、広葉樹である。本当に色のキレイな直材大径材も沢山あるといっている。人気のナラ、クリ、ヤマザクラ、オニグルミもチップ工場土場で見たり限り一杯あるといっている。そこで、ここから用材で高く売れる丸太は抜いて選別して、他社に転売したらといっても即「やります」との反応はない。もちろん

広葉樹製材とチップ兼業のところは、キツチリ抜いているが…。何故やらないのかを聞くと、そもそも毎月予定しているチップ納入枠に間に合う原木在庫がなく、チップにせざるをえない。チップ工場ですから!!最も大きな工場で何故と聞くと、「従業員が樹種がわからないので…」とにかく抜き取り選別は面倒くさい!!」との回答である。残念ですね。某田沢湖近くのチップ工場は、見込みのある丸太は、土場に一本ずつ並べて、キツチリ選別している例もないわけではない。「うん」と思うが、実は最大の鍵は、チップ工場に納入してくる素材生産者にある。山土場で、キツチリ用材と原材料を分けたら、こんな状況にはならないのである。確かに針葉樹伐採が多く、たまたま残し木や混交林、アカマツ・カラマツの中の侵入木等しか広葉樹生産しない業者では関心が薄いことは事実である。我々も勉強会をして、キツチリ指導しなくてはならない。

以上、色々な現状の問題点を述べてきたが、「売り手良し、買い手良し、地域良し、丸太良し」の四方良しをスローガンとする当組合としては、本当の価値で活用される丸太良しを実現しなくてはならない。

工場丸太救出作戦決行だ!! ↓↓

令和6年1月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	12,691	98.6	127.1	10,484	100.2	128.4	23,175	99.3	127.7
カラマツ	5,450	105.7	95.9	143	47.4	236.0	5,593	102.5	97.3
アカマツ	2,172	47.4	141.7	297	97.5	99.4	2,469	50.5	134.8
その他	0	*	*	183	46.3	49.4	183	46.3	49.4
合計	20,313	89.8	118.1	11,108	96.9	124.9	31,421	92.2	120.4

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	4,578	72.6	186.7
カラマツ	4,042	67.5	163.4
アカマツ	2,017	133.9	211.9
その他	110	13.2	*
合計	10,748	73.4	182.8

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m ³)	製材・集成材・その他用 (m ³)	計 (m ³)	燃料用 (t)
スギ	113,730	85,053	198,783	54,601
カラマツ	50,655	2,238	52,892	43,395
アカマツ	20,612	1,540	22,152	18,010
その他	0	3,991	3,991	3,793
合計	184,996	92,822	277,818	119,800
目標達成率 (%)	77.1	53.0	66.9	88.7
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和6年1月の需給動向】

- 合板製品価格の値下げが強まったことで原木価格も同様に値下げが予想される。
- 製材・集成材用スギ原木は依然引き合いが強く、当面この状況は続く見込み。
- 物流は2024年問題といった労働時間の制限により、今後、運賃の値上げが予想される。

耳からウロコ

ロシアと日本との関係

— 過去を踏まえつつ、どうする？ —

ロシアと日本は、近いか遠いかと言えば距離的には本当に近い。北海道稚内公園の望遠鏡で見ると樺太の人の姿が見える。知床からも国後島が見える。かつて、南樺太が日本領だった時代は、樺太工業という製紙工場が日本の紙供給を支え、後に合併して戦前の大王製紙時代へと発展していった。ここで、原材料供給を担ったのが浅野木材で、大阪にあるアサノである。

一方、福井県敦賀駅に行くと、戦前の時刻表がある。敦賀発パリ行き、ロンドン行きの時刻表である。喜望峰を回るのではなく、ロシアのシベリア鉄道経由が近かったのである。また、秋田犬だけは日本在来種の犬と血液型が異なり、シベリアンハスキーと一緒にと言う。本当に古い時代の交流があったのでは...と。それもあって、有名なスケート選手ザギトワが秋田犬を欲したのかな。

古くから関係はあったが、木材的に見ると、かつて北洋材として米材、南洋材と並ぶ、3大外材といわれた。酒田、新潟、富山、いわき等北洋材製材工場が多数立地していた。何と云っても船便が近かったからである。特に、富山は洞爺丸台風被害を天塩川のストックヤードから運び、台風被害に貢献したが、終了とともに北洋材に転換したのである。エゾマツ、トドマツと類似だったところもある。

合板業界も南洋材ラワン合板から林ベニヤのロシア丸太への転換を契機に北洋材へシフトが業界全体で拡大していった。

併せて、丸太の中から選別して、土木用材利用も進んだ。土木用材の指定がマツだったことから、アカマツ、カラマツが利用できたのである。広葉樹丸太も大量に輸入された。日本の業者が買い付けに行つて、山土場で「これいいね、売つて」と言つたら、中国に食糧と現物交換したといわれた逸話を聞いたことがある。

しかし、この時代の伐採は、北朝鮮やベトナムといった外国人労働者が主体だったと聞いている。今後もロシア材供給の鍵は労働力問題が重要な因子に見える。

プーチン第一次政権の関税問題、ロシア・ウクライナ問題もあり、ロシア材輸入の環境は厳しい状況にある。ロシアアカマツの製材品にこだわるエリアもあるが、そろそろ国産材転換の時期である。合板も、ロシアカラマツ単板から国産カラマツへシフトしても問題はないと現状では実感している。何なら、国内のカラマツのメツカに単板工場を建設してはと思える。

最後に、木材以外のロシア産裏話。横浜港に大量のドラム缶ワラビあり。刈払機で収穫して日本が輸入。山菜ソバの細くて堅いのは要注意。また、とある大臣が、根室を訪れ、魚屋の女性に聞く。「このカニは、ロシア産でないのか?」「いえ、北方領土は、日本の領土なので国産です。」大臣「おばさんの言うのが筋だね!」